

「分子生体応答セミナー」を開催

2014年7月9日

7月9日(水)にがん進展制御研究所棟4階会議室において、富山大学和漢医薬学総合研究所 早川芳弘准教授を迎え、「がん悪性化に関わる免疫応答の理解と制御」と題して、がん進展制御研究所分子生体応答セミナーを開催しました。

セミナーでは、がん局所での免疫応答ががんの病態形成に及ぼす影響について、種々の動物モデルでの最新の解析結果を講演して頂きました。

セミナーには、所内外の研究者並びに大学院生ら約三十名が参加し、活発な質疑応答や意見交換が行われ、とても有意義な講演会でした。



分子生体応答研究分野セミナー

日時：2014年7月9日(水)午後4時30分

場所：がん進展制御研究所・会議室(4階)

**演者：早川 芳弘 博士
(富山大・和漢医薬学総合研究所・准教授)**

**演題名：
がん悪性化に関わる免疫応答の理解と制御**

早川博士は、富山大・和漢研・済木育夫教授の研究室で学位取得後、Immune editingの提唱者の一人である、オーストラリアのMark Smyth博士の研究室に留学されました。帰国後、万有製薬・つくば研究所、東大・薬学部(入村達郎研究室)を経て、2012年4月に現職に就任されています。

早川博士は、大学院時代から、浸潤・転移などのがんの悪性進展過程に於ける免疫応答の役割に関する研究を精力的に遂行し、数々の素晴らしい業績を挙げられています。

本研究所の本年度の拠点の共同研究課題に採択されたのを機に、最近の成果について、早川博士にご紹介していただく予定です。

**司会：向田 直史(分子生体応答)
内線 6735**